



# だより

— つながれ ひろがれ —

Vol.23

編集 環境パートナーシップちば  
 代表 横山 清美  
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
 (財)千葉県環境財団 環境学習推進室内  
 電話 043-246-2180  
 FAX 043-246-6969



## 「環境づくり日本一」を目指して

千葉県環境生活部長 飯田 洋



環境に対する熱い想いと豊富な実績を有する堂本知事のもとで、現職について間もなく一年近くになりますが、着任直後から産廃処分の火災発生現場に知事や職員と共に駆けつけたこと、悪質な不法投棄対策、残土問題、県射撃場

の鉛堆積対策、土壌汚染、水質汚染など、次々と起こるさまざまな問題に直面し、充実した一年でした。

県民の健康や生活環境を守るために何ができるか、今何をなすべきか、この問題に真正面から向き合うことこそ「環境の世紀」といわれる21世紀における環境への取り組み姿勢であると思います。

仕事を通じ、いろいろな方々とお会いし、話し合う中で、環境問題に多くの県民の方々が関心を持ち、又、現に実践されていることを知ると共に、行政だけで全て対応し得るものではなく、県民一人ひとりが、自分や地域の問題として考えることが重要であると、当然といえば当然な事を学ぶことができました。

こうした中から生まれたのが、新年度からスタートします、「ちば2002年アクションプラン」の一つとして実施する「ちば環境再生計画」です。

この計画は、私達の時代が造りだしてしまった廃棄物や有害化学物質などの不法投棄や、川や海の汚染などの「負の遺産」を清算、修復すると共に、傷ついたこれらの森、海、そして川や沼などの豊かな自然を再生し、ふるさとの大切な財産として孫子の時代に引き継ぐための行動計画であります。

この計画で取り上げる事業は、一つは、県民の健康

や生活環境をおびやかす廃棄物や有害化学物質の撤去など早急に取り組む必要のある事業や、ふるさとの自然再生など人と自然が共存できる環境づくりのために戦略として実施する事業。二つとして、荒廃した里山の回復、川や海の再生、子供の時から環境学習などNPOや、民間の活動団体の自主的な活動に対する支援事業。三つとして、企業が行っている助成制度と協調し、環境再生事業に取り組む団体等への助成事業などであります。

このように広範な事業に取り組むことにより、

1. 人と自然が共存できる環境の確保
2. 環境学習や都市と農漁村との活発な交流の場の創造
3. 新しい環境ビジネスの創出と資源循環型社会づくり

などが図られると考えております。

そこでこの環境再生計画のスタートの仕事の一つとして取り組んでみようと思っているのが、県花であります“菜の花”を利用した資源循環型社会のモデル事業であります。

この事業は、手始めに手が沼周辺の休耕田を活用して“菜の花”を栽培し、菜種油を採取し、搾りかすは乳牛の飼料などとして活用し、排出される牛ふんを再度、菜の花の肥料に使って循環させる。菜種油は料理に使い、使用後の廃食油を再精製して生まれる軽油は、硫酸化合物や黒煙の少ない利点を生かしディーゼル車の燃料や石けんとして活用するというものです。

実際に事業を進めるためには、我孫子市などの自治体やNPOをはじめ地域住民の方々の協力を得て進めることとしております。

今後、県内の各地域でこの事業が進められると共に、次々と立ち上がる環境再生事業が、NPOや地域住民の積極的な事業への参加が図られ、県内の各地域のコミュニティが活発化し、県下全域の活力が高まれば千葉県の活性化に多いに役立つことと考えております。

なお、この基金は、(財)千葉県環境財団に設置することとし、目標額は「みどり基金」等と合わせて300億円程度になればと希望しております。基金の運営主体は、学識経験者、県民、NPO、経済界、県・市町村などで構成する「ちば環境再生推進委員会」(仮称)を設置して、事業の実施内容等を協議・決定することとしております。

基金への募金は、趣旨に賛同する方が、額にかかわらず、いつでも寄付が出来るようにすると共に、「ふるさとの豊かな環境づくり」に参加するとの思いを託することができるようにしたいと考えております。

この基金が県民一人ひとりに理解され、県内の各地域で活発に活用されることによって、県民総参加の

とに「環境づくり日本一」を目指す運動として、千葉県から全国に発信していければと、今、夢と希望を持ってその準備に取り組んでいるところです。

この「だより」を読まれた方々が、この再生事業に積極的にかかわっていただければと希望しております。

この計画へのお問い合わせはこちらまでお願いいたします。

〒260-8667 (住所省略可)

千葉県環境生活部環境生活課

ちば環境再生計画担当

電話：043-233-4144 Fax：043-222-8044

Email kanseil@ml.pref.chiba.jp

## ～千葉県地球温暖化防止活動推進センターの講演会から～

# 市民が取り組む地球温暖化防止対策

石井 皓 (アセアン音環境協会)

12月の寒い雨の降る21日に千葉市生涯学習センターにて、千葉県・千葉県地球温暖化防止活動推進センター主催による「地球温暖化防止月間」地球温暖化防止活動推進講演会が開催された。筆者らは「今冬は寒い」を実感しつつ、地球温暖化防止対策の話しを聞くべく千葉駅から生涯センターへのカラーリングされた舗道を急いだ。

会場には約100名の参加者がすでに着席、定刻の午後1時に環境財団・高橋参事の司会で最初の講演「地球温暖化問題の国際交渉とわが国のとり組み」を全国地球温暖化防止活動推進センターの中村裕事務局長が行った。同センターの資料によれば、我が国の温室効果ガスの削減量は2010年までに1990年の水準から6%を減らすと言うもので、このために交通部門ではCO<sub>2</sub>の発生量を1990年に対して17%増にとどめる必要がある、にもかかわらず1999年現在で1990年からの23%増となっており、これに対して環境省等はTDM等の施策を提案している。TDMとは自動車の効率的利用や公共交通への利用転換を促す施策。

次に「市民が取り組む地球温暖化防止対策」と題して、気候ネットワーク常任運営委員の畑直之氏は日本が政策策定の意思決定過程で不透明であることや検証することの出来ない結果だけの提示を批判した。同会(98年4月19日スタート)は170団体、400個人会員のNGOで、畑氏は「環境に先進的な市民」を増やし、まず個人・家庭で出来ること(省エネ・リサイクル以外にもある)を行い、具体的には次のことを提案した。

### 1. 企業への影響

- 消費行動(グリーン・コンシューマー)が市場に環境に良い製品を増やす、民生・運輸のCO<sub>2</sub>排出量は製品購入時に決まるので、グリーン購入で削減に効果有り。
- 投資行動(グリーン・インベストメント)として「エコファンド」などを選択

### 2. 地域での活動

- 自治体の政策を求める、そのプロセスへの市民参加を求める。  
環境関係の条例、環境基本計画、温室効果ガス排出抑制実行計画(地球温暖化対策推進法)
- 地元企業への働きかけ...環境報告書、温室効果ガス排出抑制実行計画(地球温暖化対策推進法)

### 3. 国レベルの政策への影響

政治行動としての投票

パブリック・コメント(意見募集)に参加

また、畑氏は気候ネットワークの活動や出版物を紹介し、南太平洋の小国ツバルが2002年から国をあげてニュージーランドに移住を始める例を引いて地球温暖化防止対策の緊急性を訴えた。千葉県のストップ地球温暖化の皆さんは講演会後にミーティングを持ち、エコにこシートの普及啓発を進めることが大事であると話し合いが行われた。



## 第4回エコサロン

(第4回エコサロンは連絡ミスにより急遽中止となり、ご出席の皆様、講師の村山和彦氏双方にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。村山氏にお願いして紙上でのエコサロンとなりました。)

### 地域通貨の可能性

村山和彦 (まちづくりコーディネーター)

こんにちは、私は都市計画の専門家です。現在、都市計画には大きな課題が二つあります。

- 1) 日本の人口は100年で3倍になる勢いで伸びてきました。今、100年で1/3になる勢いで減り始めています。日本の都市を如何に美しく縮小するかが課題です。
- 2) 世界の人口は爆発的に増えようとしています。アフリカの出生数は気象によって増減しています。即ち飢えによって人口調整がなされています。この悲惨さを回避しなければなりません。食料は人口の1割の人が生産すれば充足します。問題はその配分のシステムをどのようにするかが課題です。

都市計画は人口を分母にした技術です。都市計画家は日本と世界の一見反対に見える課題を同時に解く必要があります。食料の増産、即ち地球の緑化、パースコントロールによる人口の際限の無い増加の抑止等、目先の対策は当然必要です。同時に根源の問題解決に手をつける必要があります。

問題を解決する糸口を地域通貨に見つけました。輸送、情報技術の発展で、グローバルマーケットが大きな力をもって、地球上に大きな貧富の差をもたらしました。「市場が全てを解決する。」との迷信から発した貧富の差が、人類の平和と共存を脅かす程大きくなりました。子供の労働に依存しなければ暮らせないことから発生する、南米、アフリカ、アジアの一部に見られる貧乏人の子沢山は、地球規模での貧富の差がもたらした悪循環現象です。地域通貨は、地域循環経済の活性化を進め、生活のグローバルマーケットへの依存度を下げます。

日本はグローバルマーケットでの勝者の側に居ます。これ以上弱く貧しい地域からの収奪を止めるために、地域循環型の経済を構築しなければなりません。日本がほんの50年前までそうであったと同じような世界の貧しい地域を、これ以上グローバルマーケットの競争に引き出して、更に貧しさに追い込むことは、勝者の側にいる日本の平和と安全をも危機的状況に曝すことはワールドトレードセンターの事件で証明されています。アメリカが直面していることは、日本も遠からず直面することと考えるべきでしょう。アメリカの強力な軍力による報復を非難することで免罪符は得ら

れないと思います。

地域通貨は生活必需品を地域から得る手段です。これは先進国でも途上国でも必要なことです。マーケットの活性化で習志野の人参は関西から北海道までディーゼルトラックに載って行きます。5月、6月だけです。7月になると習志野に北海道の人参がディーゼルトラックに載って届きます。習志野では1月でも人参が採れるのに、市場の都合でそうになっています。しかもその出荷相場は、5年間で10Kgで¥648から¥5,864まで9倍の幅を変動しています。消費者はこれを買われています。農家の種代も肥料代も人手も同じなのに市場の魔法の手がこのようにしつらえています。

私の家では、みかん箱程度の箱に十数種類の有機無農薬の野菜を入れたピーナッツボックスを、略¥2,500見当で宅配してもらっています。運送費を含めてもスーパーで買うものと値段は変わりません。値段の5%分は地域通貨ピーナッツで支払います。新しい顧客を紹介すると500Pea貰えます。その秘密は流通口です。野菜の流通口は50%にも及びます。作ったものを全部消費者が買ってこれれば半値で良いのです。ピーナッツボックスは玉手箱みたいに何が入っているのかわかるまで分かりません。楽しみです。朝採った旬の野菜がピカピカしています。

生産者と消費者の顔が見えること、買い物が終わると「アミーゴ！」と握手を交わす間柄であること、これを前提にその季節に出来る露地物が楽しめるのです。アトピーも無縁になったお子さんが居ると聞きました。ご興味のある、千葉から船橋の間の方は0479-67-3367 熱田さんに私から聞いたと電話してみてください。原則的に家族で配達していますので、配達経路の14号線からあまり遠くなると無理です。このような農家と消費者の関係がピーナッツを介してあちこちでできるでしょう。

宮城県で講演をさせて頂いたときに、料理教室のやりかたを変えてくださいとお願いしました。レシピを元にして材料を集めると、冬に夏のを求め、南半球の物がなければ料理ができないようなことは基本的な生活での料理教室としてはおかしいです。今の旬の露地物をいかに楽しむか、レシピの設計をするのが本当の料理教室ではないでしょうか？料理教室をレシピ設計室に変えて頂きたいです。



地域の商店は市場での勝ち目はありません。品揃い、品質、価格で大型店を凌駕することは難しいです。約2年前から地域通貨ピーナッツを導入した西千葉の美容院は、昨年8月から12月まで10月を除き前年同月比1割増しの売上を記録しました。300m離れたところに、30面の鏡があって、テレビで宣伝して、20%ディスカウントの同業が8月に開店したにも関わらずです。これは地域通貨ピーナッツが地域の人の縁を紡いだ結果です。当然福祉関係等ボランティア活動もやりやすくなります。

地域の生活の全てと、世界の平和に役に立つ地域通貨にご興味をもってくださってありがとうございます。

#### 次回エコサロンのお知らせ

日時 2月15日(金)午後6時30分から

場所 船橋女性センター第一会議室

講師 藤原寿和氏

定員 40名 資料代 500円

「千葉のゴミ問題は怎么样了のか」

申込み先：事業部 平松南

Tel：090-2658-5093 Fax：047-375-2987

Eメール：[minami@cba.att.ne.jp](mailto:minami@cba.att.ne.jp)

## 「東京湾プロジェクト」に参加して思ったこと

小倉久子

昨年12月22日に横浜市立大学アーバンカレッジで行われた「東京湾プロジェクト」に参加しました。

この会は朝日新聞11月29日夕刊の1面に大きく開催予告が掲載されたので、その記事をご覧になった方は多いかと思えます。実際には新聞に書かれていたこととは少し違って、環境ホルモンという切り口から東京湾の環境を考え、良くしていこうということでした。(と、私は理解しています。)終わった後の懇親会で、いろいろな方とお話したことを総合すると、大きな目的(「東京湾の環境保全を総合的に考える」)はできているが、具体的な目的・やり方等はこれから考えていこうという段階のようでした。

会は3つのパートに分かれ、第1部は環境ホルモンの第一線の研究者の講演、第2部は湾岸自治体の行政・研究サイドによる東京湾環境保全施策や研究の実態についての紹介、第3部は総合討論、という構成でした。

環境ホルモンについての最新の知見を話された第1部の講演は、非常に興味深いものだったのですが、その内容については別の機会にお話しするとして、私が強く印象を受けたのは、次の3点でした。

一つは、千葉大学の森千里先生のお話の中にあっただ「リスク・コミュニケーションの大切さ」ということ。森先生は、研究者(行政も含めて)は、調査、分析をすればいいのではなく、その結果(リスクの度合い)を、正しく、わかりやすく伝えなければいけない、と話されました。もちろん、データを隠すことはいけなしいけれど、むやみに不安をあおり立ててもいけない。これは、研究者の側から見た言い方ですが、市民のほうも、正しい情報を学び、それをもとに、正しい判断や行動(危険なモノを買わない、使わない、など)をしなければいけない、ということになります。私自身、研究者の一人として、正しく伝えるということ、改

めて肝に命じたことでした。

もう一つは、国立環境研究所の森田昌敏先生が総合討論の中で、これからどうしたらいいか、という問いに対しておっしゃった、「もしかしたら、「政治」を変えなければだめなのかもしれないと考えている。」という言葉です。先生は、ドイツの緑の党を引き合いに出して、日本でもそういう動きが必要かもしれないと話されました。森田先生は、「科学者として何かをする。」とお答えになるだろうと漠然と予想していた私は、先生の口から「政治」という言葉が出てきたのが、とても意外で、それとともに、先生がそれだけ真剣に考えて下さっていることを、うれしく感じました。

三つ目に印象に残ったのは、やはり総合討論で出た、一般参加者(環境NGOの人)の発言でした。「住民 vs. 行政」という対立構造は昔のことで、今はよく「市民・行政・研究者(企業が入ることもある)」によるトライアングル(三角形)のパートナーシップが大切だと言われているが、本当はそうではなくて、行政の人も、研究者または企業の人も、だれもがまず市民である、だから「市民」は三角形のひとつの頂点ではなくて、全部の土台に「市民」が位置するのだという意見です。これも、本当にそのとおりだと思いました。

このように、環境ホルモンの影響をどう減らすか、東京湾をどうしたら守れるかと考える時、最終的には、私たち市民が、自分のこととして、どう考え、どう行動するかで決まってくるというのが、私の受け取った結論でした。

さらに言えば、この結論は東京湾や環境ホルモンに限ったことではなく、三番瀬の問題も地球温暖化の問題も、みんな同じように、私たち市民が本気になって勉強し、考えなければいけないことではないでしょうか。おまけとして、共感した参加者のコメントを、もう一つ紹介します。みんな、環境を守るとか、環境を良く

するとか言うけれど、われわれ人間が汚すから汚れるのであって、それを「守ってやる」などと言うは、おこがましい、というものでした。私も、この文中でもつい使ってしまいましたが、反省します。

最後は、また宣伝です。千葉県環境研究センターの2月の公開講座は、千葉県立中央博物館副館長の望月賢二先生による、干潟のお話です。東京湾にとって非常に大切な要素である「干潟」について勉強したい方、ぜひ、市原にお来ください。お待ちしております。

#### 千葉県環境研究センター 公開講座

日時：平成14年2月23日(土)13時30分～16時

場所：千葉県環境研究センター 新館2階研修室

講師：千葉県立中央博物館副館長 望月賢二先生

演題：干潟の機能と現状について

定員：100名(先着順)

申し込み、お問い合わせ

Tel：0436-24-5309 Fax：0436-23-2870

E-mail：kyy03517@nifty.ne.jp

## 「センス・オブ・ワンダー」自主上映会を開催して

浦安 服部丈夫

2001年7月22日にみなさんお馴染みのレイチェル・カーソン原作「センス・オブ・ワンダー」の自主上映会を浦安において開催いたしました。これはその記録です。

### 1. 2000年9月15日自主上映会の立上げ

レイチェル・カーソン日本協会理事長で「センス・オブ・ワンダー」の訳者上遠恵子さんに環境講演会をお願いしているご縁で当浦安においても「センス・オブ・ワンダー」の自主上映会を行おうということになり、2000年9月15日に自主上映委員会が有志により立ち上げられました。

### 2. 2000年12月上遠恵子さん環境講演会開催

12月17日上遠恵子さんに「レイチェル・カーソンを語る」と題した講演をしていただきました。この時点で、「センス・オブ・ワンダー」の自主上映会が人々の関心を呼び、講演会開催前から私どもに質問が多数寄せられ、それまでに作った同映画上映用の資料をお送りしました。

そして講演会には各地の自主上映に関心のある人達が参集し、上遠恵子さんの講演を聞き、映画の内容や彼女の人物に接し、上映会を開催し成功させようと決意を固めました。

### 3. 上映会準備

ポスター、チラシ、入場券についても上映会メンバーの手作りで素晴らしいものができ、順次浦安市内に沢山のポスターが貼られました。

6月浦安市の環境キャンペーン当日には、上遠恵子さんに「映画センス・オブ・ワンダーを語る」と題して講演をしていただきました。この頃より徐々に入場券も売れ始めました。

やがて、上映会のメンバーの熱意が浦安を駆けめぐり、多数のご依頼があるようになり、上映会メンバーで対応しきれず、入場券の前売窓口を市内2ヶ所に設けました。まだ上映委員会を立ち上げていない地域の方々からも申込みがありました。

### 4. 7月22日上映会当日

上映会当日前売券販売窓口で確認すると、売行きは上々です。それでも、果してどれだけの方が会場に来ていただけるのか不安でした。上映会場の入口に立看板を立て、当日販売窓口を作り、レイチェル・カーソンの書籍販売コーナーも設けました。

上映30分前から当日券販売窓口に入々が並び始め、それから上映開始5分前までひっきりなしに人がきました。それが上映開始5分前になると人波はびたっと途絶え、みな座席に座り上映開始を待受けました。やがて、映画が始りました。

小さな子や少年少女も多数来ていました。上映中走り回ったり泣出したりしないか不安でしたが、子どもたちはみな静かに画面に見入り、まるで画面に同化したようでした。この映画は子供には無理だという話も聞きましたが、杞憂でした。子どもに向くかどうかは大人が決めることではなく子ども自身が決めることだったので。そして映画終了まで席を立つ人は全くありませんでした。

### 5. 映画終了後

映画終了後、感想文を募集しました。多くの方々からいろいろなお話も頂戴しました。

ある年輩の男の人は映画の途中から涙がでて止らなかったと言います。涙はなぜでたのかと問われても説明のしようがないことかもしれません。この映画がその人の感性や情緒にふれ、その人の心を揺り動かしたのでしょう。言葉を使わなくても理屈で説明できなくてもお互い分り合える世界がある、こんな事をその人の涙は教えてくれたような気がします。

なにはともあれ、上映会は大成功でした。上映委員会のメンバーの一人一人が友達や知合いに呼びかけお誘いしたことが浦安の多くの人びとを上映会に引きつけ、その方々の感動が今度は私たちメンバーに多くのものを与えてくれました。

## 海老川環境マップ作り

平松南

環境パートナーシップに話が来たのは、今年の夏過ぎた頃だった。

千葉県が環境学習用に教材を作るので、当会からも検討委員会にでて、意見を言って欲しい。環境学習は、市民の視点、とくに環境活動を実践している市民の視座が必要であるとのことである。

みな適任で関心があるのだが、多忙な会員が多く、その上自薦となると手を挙げないのは、中高年世代の常であり、ニッポンの古き良き美德である？というわけで、譲り合いの末、大西優子さんがまず決まり、会の唯一の学生会員で千葉工大生渡辺正樹君が続いた。

ついでに、編集者として出版に長年携わってきた私も選ばれてしまった。委員会は、事務局に県生活環境課の湯下さん、専門家として石井皓さん、小倉久子さ

んらが控えていたが、みな業務をこえて熱心であった。テーマはいろいろ検討された。一概に環境といっても広大で、大気にしぼるか、ゴミをやるか、侃侃諤諤の末、水循環を取り上げることにした。

ところが水循環と申しましても些か広うござんすで、これまた侃諤となったが、結果は「海老川の水循環」に落ち着いた。勘の良い方なら、ナールホドと納得されよう。海老川は船橋市市域を貫流する典型的な都市河川。上流の開発、水害、水質汚染、洪水調整池の設置、環境護岸。海老川は、都市の川が持つ課題を全部背負い込んで黙々と流れている。真間川も都川も坂川もみな同じ宿命の下にある。しかも海老川河口には、あの三番瀬。

環境学習にはこれほど最適な主題はない。全員が一致した。

第一弾の主題はこうして決まったが、さてこれからの実作業が難関ばかり。これは次回のお楽しみに。



## 「自然観察からはじまる自然保護」

四街道自然同好会 市川清忠



高度成長期が終って、ようやく世の中が落ち着いてきた。人々は異常気象や地球の温暖化に目を向け始め、あまりにも多くの自然環境を回復しがたいほどに破壊してきたことに気付き始めた。

30年ほど前に尾瀬沼の林道工事をきっかけにはじまった自然保護運動が近年ようやく力を得て、全国各地で様々な活動を見るようになった。現在では高齢者から幼児に至るまで多くの人々が自然の素晴らしさを知り、感動し、愛し守るといった活動が広がっている。

私が14年前にはじめた、四街道自然同好会での自然観察も、今では小学校、公民館、森の応援団、親子劇場、生協、PTA等々での自然観察会や自然体験にひろがり、多くの人々が参加するようになった。以下各分野での活動を紹介する。

### 1. 自然同好会の自然観察会

四街道自然同好会は14年前から市政便りなどで広く市民によびかけて、自然観察会を1ヶ月に4、5回、主として四街道市内の10コースで続けてきた。現在370名の会員をかかえる大所帯となった。参加した人々は、「身近なところにこんな素晴らしい自然があったのですね。」「参加して自然の見方が変わりました。」「目から鱗が落ちました。」という。

野草の名前だけに興味を見せていた人もやがて植物から虫、野鳥、そして水へと自然全体を感じるようになった。これが発展して豊かな自然を今日まで保全してこられた古村への尊敬へと変化し、今では古村に伝わる民俗の研究、高齢化した農村の里山

の森の手入れへと変化していった。

### 2. 森の応援団

森の応援団は誕生してちょうど2年になる。熟年男性を中心に、熱心な女性を加えて行っている。農家の高齢化、エネルギー革命による薪・炭の供給地としての里山林の役割低下、貿易自由化による木材価格の暴落などが原因で、いま里山の森が荒廃している。いっぽう、森の地権者にとっても先祖代々受継いできた森が荒れているのは耐えられないことである。私たちは森に人々、なかんずく子ども達が自由に入り、森の体験をできる場を作ることは大切な役割であると考えた。市に仲立ちを依頼し協定を結びつき月2回のペースで森の手入れを行っている。森の応援団が倒木を整理し、入り込んだ竹や笹を伐採すると、見る見るうちに美しい森に変わっていく。

### 3. 親子が森で遊ぶ活動の支援

美しくなった森や開発した自然観察路に親に連れられて子ども達がやってきた。親子劇場、プレイパークを作る会、生協などが行う「森で遊ぶ」行事の支援を行っている。豊かな自然環境を後の世に残すためには、子ども達に自然体験の機会を与えることは不可避であると考えからである。

### 4. 公民館などでの活動

自然の素晴らしさを伝える方法は多様である。「自然面白講座」「自然ハイキング講座」から「三歳児のなかよし教室」まで、年齢も多様なら、中身も自然観察会に始まり、草木染、押花、リースづくりなど



自然に関わる全ての分野に及ぶ。様々な切口で自然を体験し、自然を大切にすることを増やそうとするからである。

#### 5. 市の緑の基本計画会議の参加

今、四街道市は緑の基本計画づくりを行っているが、自然同好会のメンバー多数が基本計画会議に参加し、市の里山を何年も観察し熟知している立場で積極的に発言している。

#### 6. 小学校の支援活動

今年から小学校で正式に始まる総合的学習にさきがけ、昨年頃から小学校での自然体験学習が多数行

われるようになった。同好会でも、千葉県自然観察指導員協議会が立ち上げた小学校自然観察支援ネットワークと協力して、各小学校からの要望に応じている。四街道市内でも11月だけで、4小学校で計7回の自然観察会やネイチャークラフト、草木染など行った。

#### 7. まとめ

昨年10月～12月の行動の記録を見ると、秋という季節的な特性もあるが実に様々な活動を行っている。しかし、残念ながら中学生から青年層の参加がほとんどない。これからの大きな課題である。

## ミュージカル「瓶が森の河童」と八千代環境展

ふるさときゃらばん実行委員長 加藤 賢三

昨年の12月23日に八千代市民会館で「ふるさときゃらばん」のミュージカル「瓶が森の河童」の公演が行われました。今回の出し物である「瓶が森の河童」は、森林の開発により絶滅寸前の河童と動物たちと人間との関わりを通じて、失われていく自然の尊さを考えさせる、親子で楽しめるものでした。

人間と自然、人間と他の生き物とが、それぞれの生きる価値を認めあって暮らしていくという、このミュージカルからのメッセージ、感動を観客と舞台が一体となって、文字通り共に分かち合いました。

金子みすず「わたしと小鳥とすずと」の詩のように、みんなちがってみんないい、という考えが、生物の多様性と共生を尊重することにつながるように思えてなりません。

ふるさときゃらばん実行委員会 in YACHIYOでは、環境関連グループを主体として実行委員会を組織し、約60余名のメンバーで何回も会合を重ね3ヶ月間準備をしました。

今回の河童のものがたりの八千代市バージョンとして、身近な新川、そして印旛沼を、どうすれば良好な環境を維持できるかということテーマとして、会館ロビーで八千代環境フォーラムによる環境団体パネル



展示および各種イベントを開催しました。

八千代環境展への参加団体は、環境パートナーシップちば、千葉ゴミゼロを考える連絡会八千代支部、「千年の森」森の学校、ネット房総八千代、街づくり市民の会、八千代ケナフの会、八千代青年会議所、環境浄化を進める土の会、八千代の自然と環境を考える会、八千代バラの会、八千代ほたるの里づくり実行委員会、八千代ホテルフォーラム、八千代メダカの会、東京湾岸ぐるっとくらの14グループ。

会場ロビーでは、アクリルたわしの販売、無洗米、無洗剤洗濯機の紹介、その他、八千代の物産展など盛りだくさんのイベントに大勢の人が集まりました。

ふるさときゃらばんの公演においては、私たち実行委員会は舞台道具の搬入から、舞台作り、片づけまで、ふるさときゃらばんの方たちと一緒に作り上げていくという、見るだけ、聞くだけものではない、まさに全員参加型のミュージカルでした。このように、舞台と観客席が本当に一体となってミュージカルを鑑賞できたのが何よりでした。

最後の場面で、舞台の瓶が森の沼周辺に一面ホテルが飛んでいたのが印象的で、これが、自分たちが期待している、「見てみたいホテルの飛んでる印旛沼」、の風景かなと我田引水の境地でした。



## エコマインド講座日記 5・6日目!

5日目：環境研究センターで「房総の地質研究」でした。当初の予定日8/22が台風により延期されたためか、参加者は少なめでしたが、地震による被害や地層における水の安全性など、館内を見学して回る学習スタイルは、面白かったです。ただ、はじめのビデオ、実は私はあんまり見えませんでした。

6日目：8/29は手賀沼親水広場で「県内の河川や海域について」です。この日は講義がテンコ盛り状態で、家庭雑排水による汚染など興味深い内容なのですが、皆さんディスカッションの方が好きなよう

で、幾分盛り上がり気味。後半は手賀沼の水を採取し、その中のプランクトンを顕微鏡で見るあたりになると活気が出てきました。最後に飛び入り参加してくださった小倉さんの講義では、いつもの空気になりました。例えばせつけんについてであっても、専門家がどう考えるか、ちょっとした雑談をみんな聞きたがっているのです。「専門外なので返答できません。」と言われるのは、悲しいのです。“私個人では、こう思う”という言い方で対応してくださった小倉さんの講義、とても評判よかったですよ～。

### お知らせコーナ

エコサロン 4ページ

千葉県環境研究センター公開講座 5ページ

環パちば主催 2001年度第2回学習会

日時：3月2日(土)13時30分～16時30分

場所：千葉市立美術館講堂(千葉市中央区役所内)

テーマ：地球温暖化防止を考える

問い合わせ：Tel & Fax 0471-72-6129(田口)

Eメール：[my-taguchi@mx6.ttcn.ne.jp](mailto:my-taguchi@mx6.ttcn.ne.jp)

ちばNPOフォーラム

日時：2月12日(火)18時～20時30分

場所：ぱるるプラザちば

基調講演 山岡義典日本NPOセンター常務理事

パネルディスカッション

問い合わせ、申し込み：

千葉県環境生活部環境生活課NPO活動推進室

Tel：043-233-4144 Fax：043-222-8044

Eメール：[kansei7@ml.pref.chiba.jp](mailto:kansei7@ml.pref.chiba.jp)

高齢化社会・環境情報センター連続セミナー

日時：2月13日(水)14時30分～16時

場所：千葉大学法経学部第二会議室

話題：「鹿島川、印旛沼の水源涵養林づくり」

講師：下泉・森のサミット代表 鈴木優子氏

問い合わせ：043-290-3585(倉阪)

環境学習協力フェスティバル21

日時：2月17日(日)13時～17時

場所：千葉市生涯学習センター大研修室

定員：50名 参加費：1000円

主催：環境カウンセラー千葉県協議会

問い合わせ：Tel & Fax 043-265-8533(田中)

千葉県立中央博物館環境教育セミナー

生業・生活と水辺環境

日時：2月24日(日)午前10時～午後3時

場所：千葉県立中央博物館 講堂

手賀沼の生活誌(菅 豊氏)ほか

問い合わせ：Tel 043-265-3167(環境教育研究科)

<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/index.htm>

ケナフによる水質浄化フォーラム

日時：3月11日(月)14時～16時30分

場所：我孫子市民プラザホール

定員：200名 資料代：500円

申し込み要：千葉ケナフ普及連絡協議会

Tel 03-5695-1936 Fax 03-5695-1939

Eメール：[kenaf@kt.rim.or.jp](mailto:kenaf@kt.rim.or.jp)

原稿募集

「環パちば」だよりに地域の情報や話題、談話室向けの随想、などをお寄せください。

(古紙100%使用)

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申し込み先：千葉県環境財団

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

ホームページ：

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

### <環境パートナーシップちば>

#### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

(該当するところを で囲んでください)

氏名		入会年月	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		



